



法学部独自の奨学金制度
「やる気応援奨学金」を利用した
学生の体験をご紹介します

2020年1月27日(月)から3月10日(火)まで、やる気応援奨学金を用いて、フランス語語学研修及びフランスの移民問題・移民の社会統合に関する学習のため、フランスの首都パリとモンペリエに短期滞在しました。高校生とき、テロと移民の関係性について研究したことをきっかけにフランスの移民政策や社会統合に関心を持ち、その知識を深めるとともにフランス語を集中的に学習したいと考え、この奨学金に応募しました。

困難極まる語学研修

語学研修は困難の一言に尽きました。クラス分けではA1+という初級より少しだけ上のクラスに振り分けられるも、なぜこの人たちがA1+にい



語学学校のクラスメイトたちと (1番左が筆者)

るんだと思うくらい、クラスメイトはフランス語が達者な人ばかりでした。私の場合、黒板に流暢な筆記体で書かれたフランス語を解読することから始まり、日本で生活していたときは馴染みのなかった筆記体を必死に覚え、やっとスタートラインに立つことができました。しかし、これは波乱の幕開けにすぎなかったのです。

文法は大学で履修済みだったためおおよそ理解することはできましたが、問題は会話でした。少人数クラスだったために会話やディスカッションが数多く実施されましたが、まず先生の指示が聞き取れません。今から何をしな



フランスに留学した筆者 (左)

ければならないのかという説明が聞き取れず、一人困惑したまま無情にも授業は進んでいきます。あまりの情けなさに涙をこぼしたのも一度や二度ではありません。

しかしながら、先生方や優しいクラスメイトは至らぬ私にも根気強く接してくれました。クラスメイトは聞き取れなかった指示を簡単なフランス語もしくは英語で教えてくれ、先生は見当違いな回答しても怒ることなく解説してくれました。初歩的な質問にもわかりやすく答えてくださり、できないことを思い詰めてはならないと、精神面でのアドバイスもくだされました。まさに語学研修の洗礼を受け続けた1カ月と言っても過言ではありませんが、その1カ月の奮闘により、単語力と語彙力は大幅な上昇を見せまし

移民の社会統合と
フランス語を学びに

みずくれまゆこ
水呉 真侑子

法学部政治学科2年
大分県立大分上野丘高校出身

た。ホストマザーとはフランス語のみで会話していたため、伝えたいことを自分の語彙から引き出し、相手に通じるように話す練習や、日常会話で使う言葉を増やす機会は非常に多くありました。毎日夕食をとる際、1日にあつた出来事を時制や文法に注意しながら話したり、フランスに来て感じたことや日本のことについて話したりすることで、次第に多様な話題を話せるようになっていきました。

テロと移民問題と社会統合

私は留学中、パリ政治学院で教鞭をとっていらつしやる Catherine Winhol de Wenden 様にお会いし、「移民の失業率」「フランスの人々がテロリズムという過激な思想に影響された要因」「第一世代の移民と第二世代の移民

に対する社会支援」という3つの項目について質問させていただきました。また、エクス・アン・プロヴァンス政治学院の院長でいらつしやるRostane Mehtu様から、移民問題の統括的な意見をいただくこともできました。

外国人労働者を含め、移民として他国に移り住む人々に欠かせないのが、社会統合に向けた支援です。社会統合の達成は、母国から他国へ移住する人々が、自国と異なる文化、社会、言語が存在するなかで生活するうえで必須だと言えます。フランスでは、移民の第一世代を中心に、語学や文化、社会制度、共和國的価値観などを学び、社会統合をめざす支援が行われています。しかしながら、社会統合に向けた取り組みには多大な時間と資金、人材が必要であるため、第二世代以降の移民にはこれらの支援が行き渡っていません。

社会統合に向けた支援を怠れば、自国との文化や慣習の相違によって自分



留学中に滞在したモンペリエの風景

From the Faculty of Law



法学部だより



もう一つの「法学部」

法学部事務室
織戸 麻美

皆さまが「法学部」と聞いてすぐに思いつくのは、法律学科、国際企業関係法学科、政治学科の3学科だと思いますが、もう一つ「法学部」の仲間が存在します。

中央大学では、法学部のみに「通信教育課程」が設置されています。ごく一部の科目で、通信教育課程と合併開催をする授業があるものの、基本的には在学中に通信教育課程の学生と直接ふれ合う機会はありません。それでも今回ご紹介するのは、将来役に立つときが来るかもしれないからです。

法学部通信教育課程は、他大学の法学部通信教育課程と比べて学生数が多く、法律を学びたい方々から選ばれている大学で

あると言えます。約3,300名が在籍しておりますが、そのうち約8割は社会人として働きながら学修されていますし、大学を卒業したあとで改めて3年次編入学をする方も増え続けています。これは、人生100年時代と言われるなかで、大学卒業後も知識をアップデートすることや、仕事に関連して専門的な知識を身につけることが重要となり、リカレント教育が目目されている影響が大きいようです。

法学部通信教育課程が多くの社会人に選ばれているのは、従来型のレポート課題を添削する通信教育手法に加えて、法学部の先生方が行う熱のこもった授業をインターネットで繰り返し見ながら学ぶことができる専門科目を数多く整えており、隙間時間を使って学びたい方々のニーズに応えているからだと思います。

在学生の皆さまが大学をご卒業され、社会に出てから学び直したいと感じたとき、ご父母の皆さまが再び学びたいと思いついたとき、1科目からでも学ぶことが可能です。このような場が「法学部」には用意されていて、卒業後も戻って来られるということを、頭の片隅にでも入れておいていただければ幸いです。

のアイデンティティを失いかねません。実際、アイデンティティを失った移民の子孫がテロリズムの思想に感化されてしまい、結果として「テロリズム」に加担しているその多くが移民でありました。現状のフランスでは、移民の第一世代を中心として社会統合に向けた支援が行われていますが、将来的に第二世代以降にも支援の手を広げる必要があるのではないかと感じました。

まとめ

今回、フランスに留学するにあたり、多くの方に力を貸していただきまして。両親には留学することを事後報告して当然叱られました。先生方にはなかなか決まらない訪問先についてアドバイスをいただき、質問の校正もしていただきました。

もともとのレベルが低かったこと、

わからないことがあまりにも多過ぎたことを鑑みると、語学研修としては満点ではなかったかもしれませんが、しかし、これら数々の反省は実際に行つて、経験してみないと絶対に得ることはできなかつた宝です。実際に行つて、自分の目を見て、自分の耳で聞くことの重要性を知れたことは大きな糧です。今後も勉学に取り組み、より深い探求ができるよう自身を高めていきたいと考えています。